みなと物語

八幡屋小学校

八幡屋小学校は大正13(1924)年に八幡屋尋常小学校として創設されました。昭和20(1945)年6月空襲で全校舎が焼失したため、昭和21(1946)年に三先国民学校に統合されて休校、昭和24(1949)年に菊水小学校の分校として再発足。昭和25(1950)年に菊水小学校から独立し、八幡屋小学校として再開されました。昭和28(1953)年には、高潮対策の一環で、350メートル離れた現在地に校舎が移築されています。

今回は、昭和24年に三先小学校に入学し、2年生のとき学校の再開に伴って八幡屋小学校に移られた角正基さんにお話をうかがいました。

角正基さん

「2年生のとき、学年から100人ぐらいが三先小学校から八幡屋小学校に移りました。当時は木造校舎で、今の八幡屋商店街の場所にありました。昭和25年のジェーン台風のときには、校舎は水につかり、プールは押し寄せた流木やゴミで被害を受けて使えなくなりました。

まだ港晴小学校や池島小学校がなかったため、3、4年生ぐらいの頃は、1クラス56、7人ぐらい、5クラスと児童数が多かったので、二部授業をしているときもありました。午前中の組は朝からお昼まで、午後の組はお昼すぎに出てきて夕方まで授業がありました。午前の組が終わる頃には、午後の組のこどもたちが来て廊下で待っていました。

校舎曳家工事
(『港地区復興土地区画整理事業誌』より)

小学校5年生のときに、校舎を引っ張って今の場所まで持ってきました。まず新しい学校の敷地が盛り土工事で3.8メートルかさ上げされました。それから校舎をジャッキで持ち上げ、レールの上をワイヤーで引っ張っていきました。工事は夏休み中だけでは終わらないので、夏休みに入ってしばらくは築港小学校の教室を借りて授業を受けました。移築後は、校舎は前のままでしたが、学校の敷地が移築前よりも広くなったように記憶しています」

移築後の木造校舎と現在もある鉄筋校舎
(「八幡屋小学校創立80周年記念」より)